

令和7年度岩手県二戸保健所運営協議会 会議概要

1 開催日時

令和8年1月13日（火）18:30～19:30

2 開催場所

二戸地区合同庁舎 1階大会議室

3 出席者

【委員】

藤原淳委員（二戸市長）
山本賢一委員（軽米町長）
岩崎一弘委員代理（九戸村副村長）
小野寺美登委員（一戸町長）
横森浩道委員（一般社団法人二戸医師会長）
森川伸彦委員（二戸歯科医師会長）
金澤悟委員（二戸薬剤師会長）
関理恵委員（公益社団法人岩手県看護協会二戸支部副支部長）
小笠原敏浩委員（岩手県立二戸病院長）
佐々木由佳委員（岩手県立一戸病院長）
葛西敏史委員（岩手県立軽米病院長）
相馬俊昭委員（一般社団法人岩手県食品衛生協会二戸支会専務理事）
山口金男委員（二戸地区社会福祉協議会連絡会長）
小森信男委員（岩手県公衆衛生組合連合会二戸支部長）
若松優子委員（一戸町小中学校校長会）
下村美江子委員（新岩手農業協同組合女性部北部支部長）
森川静子委員（岩手県食生活改善推進員団体連絡協議会二戸支部長）
相馬秀子委員（二戸市保健委員協議会副会長）
深田泰之委員（二戸地区広域行政事務組合消防長）

【オブザーバー】

佐々木貴之氏（二戸市健康福祉部健康福祉企画課長）
竹澤泰司氏（軽米町健康福祉課長）
篠山剛氏（九戸村保健福祉課長）
野崎貞春氏（一戸町福祉部長兼健康子ども課長）

【事務局】

小守林保健所長、石手洗次長、三浦管理課長、染谷福祉課長、菊田技術主幹兼保健課長、懸田技術主幹兼環境衛生課長ほか保健所職員4名

事務局から、九戸村長大久保勝彦委員の代理の岩崎副村長の出席及び1名の委員の欠席を説明。

4 傍聴者

なし

5 主催者あいさつ

<小守林保健所長>

本日は御多用のところ、また、お足元の悪い中、二戸保健所運営協議会にご出席いただきありがとうございます。

また、委員の皆さんには、保健・医療行政の推進について、日頃から、格別の御協力・御支援を賜

り、深く感謝申し上げます。

当協議会は、地域保健法に基づき設置するもので、地域の医療関係団体、行政機関、社会福祉施設等の関係者の皆様に、管内の地域保健及び保健所の運営に関する事項について御協議いただく場として開催しております。

本日の会議は、当保健所の令和7年度事業の実施状況について説明した後、情報提供として、「医療従事者の確保に係る取組」、「健康危機管理に係る取組」、「こころとからだの健康づくり事業」、「県北にのへ環境を守り育てる人材育成事業」、等について御説明いたします。

当協議会でいただく御意見等を、今後の保健所運営に生かして参りたいと存じております。

委員の皆様からの忌憚のない御意見を賜りたくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、開催に当たっての御挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいいたします。

6 議事

議事に先立ち会長及び副会長の互選を行った。

委員から自薦・他薦がなかったため、事務局案として会長に二戸市長 藤原 淳 委員、副会長に県立二戸病院 院長 小笠原 敏浩 委員を提案し了承された。

続いて、事務局から、保健所運営協議会条例第4条第2項の規定により会長である藤原委員を進行役に選出し依頼した。

- ・ 令和7年度の岩手県二戸保健所業務概要について

<事務局による説明>

<質疑>

なし

7 情報提供

- (1) 医療従事者の確保に係る取組について
- (2) 健康危機管理に係る取組について
- (3) こころとからだの健康づくり事業について
- (4) 県北にのへ環境を守り育てる人材育成事業について
- (5) 国立がんセンターによる「多目的コホート研究に基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究 (J PHC)」及び「次世代多目的コホート研究 (J PHC-NEXT)」について

<(1)から(5)まで事務局による説明>

<質疑>

(小笠原委員)

日頃、さまざまお世話をいただいてありがとうございます。いろいろ考えて幅広い取組をしていただいており、素晴らしいと思いました。特に、医療従事者の確保について、地域の医療資源が減っていると感じており、現状維持以上に拡大していただけたらと思っています。私のような者が話すより、年齢が近い研修医の方が、生徒とは年が10歳位しか違わないため、よいようです。隣に二戸高等看護学院もありますので、看護師で年齢の近い方が接することができるような機会を作っていただければ、生徒も話も聞きやすいと思います。二戸病院としては全面協力します。この地域に根差した医療従事者が生まれることを願っております。よろしくお願ひします。

(三浦管理課長)

今年は二戸病院から御協力をいただいて、若い先生に来ていただきました。保健所では中学校への希望調査、講師の調整を行っています。中学校からすると年間のカリキュラムが決まっていることもあります。コロナ禍前はしていたけれどもやれない、カリキュラムに入りきれないところもあると聞いております。保健所以外でも出前講座を実施しているところもあります。様々な兼ね合いもありますが、保健所としては、管内のすべての中学校に通知を送付し、調整を行っているところです。二戸病院をはじ

め、皆さんに御協力をいただけたらと考えています。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

(小笠原委員)

県立二戸病院も病院祭で病院を公開しています。二戸高等看護学院でもオープンキャンパスを実施するなど、様々な取組を実施しています。二戸市や軽米町にも講師を派遣しています。難しい所もあると思いますが、どうぞよろしくお願ひします。

(森川委員)

国では医療に対する予防的な健康発信を行うとしています。歯科医師会では成人歯科健診をこれまで40代から実施していましたが、二戸市では今年から20代から節目に歯科健診を実施しています。幼保小中高校までは、保育施設、学校で管理ができますが、高校を卒業して、成人になってからは健診等できません。20代から10歳刻みで健診を行っていくとすべての方が網羅できます。成人の健診は法定で全員受診できますが、歯科健診はまだ法定ではありません。国民皆歯科保健で進みそうですが、いつになるかわかりません。岩手県では積極的に行なった方がよいと県歯科医師会も考えていると思います。二戸市が行なっているように軽米町、一戸町、九戸村でも、20代から10歳刻みで実施したらどうでしょうか。ただ、普段歯医者にかかる人が多いため、参加者数は少ないと思います。しかし、健診という形で行なうことは重要であり、案内はするべきだと思っています。保健所で検討していただき、すぐには申し上げませんがそうなっていけば喜ばしいと感じます。質問としてではなく、意見として申し上げます。

(山本委員)

医療と介護、福祉の連携が一番大事と感じています。軽米町では軽米病院があり、病院を中心に連携がうまく取れないと感じています。連携をさらに強化しながら自殺予防、減塩対策、森川先生もおっしゃった、健診による早期発見、早期治療といったことを年間を通して網羅しながら、医療と介護、福祉の連携を行い、相対的に健康づくりを行う対応が大事であると感じています。今後ともよろしくお願ひします。

(佐々木医院)

先程小笠原先生がおっしゃったことですが、去年、一戸病院主催で一戸中学校と北桜高校に独自に一戸病院への見学を案内し、一戸中学校から1名、北桜高校から4名、年1～2回実施している。保健所とコラボして一緒にできれば、もっと人が集まると考えています。声をかけていただければ幸いです。

あと、山本町長さんがおっしゃったように、一戸町も同じで、一戸病院は病院ですが、ほぼ認知症プラス介護となっています。今後、医師不足、職員不足をどのように切り抜けていくか、県立病院といえども単独ではできないため、市町村、病院、地域連携推進法人もありますので、一緒にやっていけるものがあるのではと感じています。

小野寺町長をはじめ、今後協議できる機会があればと感じており、申し上げさせていただきました。

(葛西委員)

子どもの数は少ないです。昨日、二十歳のつどいのニュースを皆さんご覧になったと思いますが、都内だけでも10万人減っています。その10万人を外国人がカバーしている状態です。多分、どこの市町村でも子どもの数は減っていると思います。岩手医大100人いるうち、岩手県出身者は20人いるかないかです。岩手県、医者いないよといつても、結局、大学に入っていない。学力的に少し厳しい。医者になるのが難しいとの話はよく聞きますが、岩手県医療局から奨学金が出ます。500万円の1学年の学費はすごく高いですが、30万円×12か月分、360万円出ます。つまり、家庭の負担は140万円です。すると都内の普通の大学に行くより安いのでは、といったPRができます。あと、看護師の初任給は大手銀行と同じくらいです。初任給いくらです、何号級何号俸ですよと言っても皆に響かない。インパクトがあるPRができるような戦術を考えながらやった方がいいのではないかでしょうか。もちろん、勉強も大事です。

(藤原委員)

気になるのが、自殺死亡率で全国で岩手県が一番、岩手県の中で県北が一番ということは、全国で県北が一番ということは、何とかしなければいけないと考えますが、佐々木委員、何かいい案があったら

お願いします。

(佐々木委員)

自殺関係の会議に出て感じるのは、いろいろな職の方々が集まる中で、自分たちの職には関係ないと考える方がいるところです。決してそうではなく、生活苦、長生きして将来どうやって生活していくか、家族に頼れない、子どもにも頼れないとの社会構造となっており、大きなくくりの中での地域の自殺率の増加として現れているものです。医療だけの問題ではなく、多職種で連携し、社会現象として取り組んでいく必要があると感じています。

8 その他

なし

9 閉会